

ショートコメント vol.323 (2024年5月30日)

テーマ：2024年の人口移動をめぐるサプライズ

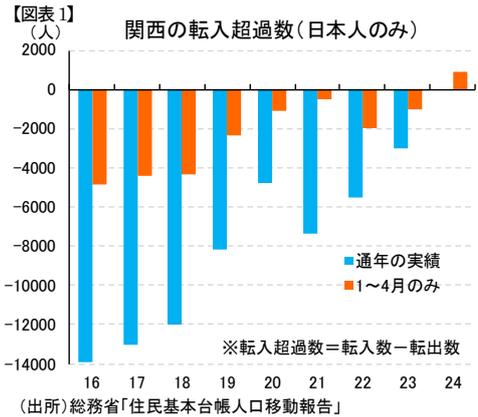
～ 1～4月の合計で関西が転入超過に（日本人移動者）～

●2024年の人口移動

2024年の人口移動は現時点で1～4月の結果が公表されているが、関西について注目すべき動きがみられる。

外国人を含む転入超過数がマイナス38人、日本人のみでプラス909人と、好調であった昨年を上回る動きとなっており、特に外国人を除いた日本人の動きに限れば、4月の時点で転入超過の状況にある（図表1）。外国人を含む動きでも、コロナ禍による特殊事情で押し上げられた、20～21年に近い動きとなっている。

主な好調の要因は大阪の増加であり、日本人の動きでは1～4月で10,175人の転入超過と、前年比で3805人の改善となった（外国人を含む全体では3489人の改善）。こうした好調な動きが続けば、日本人の移動に限れば、関西が通年で転入超過となる可能性もあろう。



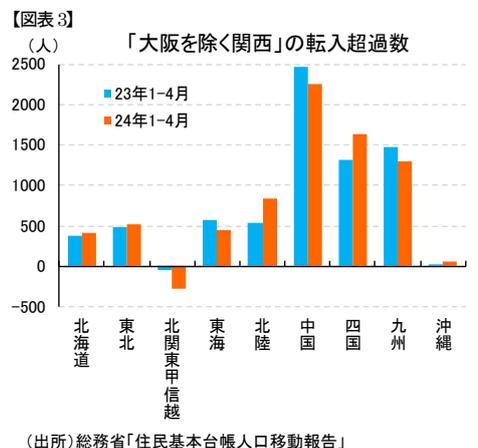
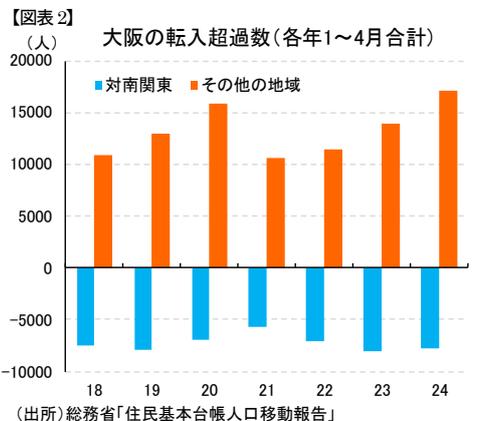
●大阪をめぐる人口移動

好調が目立つ大阪の動きに注目すると、東京を中心とした南関東への転出が一定のペースで続いている一方、それ以外の地域からの転入は改善がみられる（図表2）。

南関東を除く地域に対しては、1～4月は1.7万人の転入超過で、前年よりも3千人強の改善となった。地域ごとの内訳では、関西（大阪を除く）からの転入の増加が目立つが、中国、四国からの増加もみられる。前年までと同様、広域からの転入が進んでいる点は、大きなプラス材料といえよう。

一方、好調が目立つ大阪に対し、大阪以外の関西については前年比で少し悪化がみられる。ただし、前年比での悪化（約3千人減）のうち、2千人が大阪向けの悪化、1千人が南関東向けの悪化であり、それを除く地域に対してはほぼ前年並みとなっている。

具体的には、大阪と南関東を除く地域に対しては、前年、今年ともに約7千人の転入超過を記録しており、一定の人口吸引力は維持していると考えられる（図表3）。



●年齢層別の動向

一方、関西をめぐる人口移動について、年齢層別の動きをみ

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。

ると、コロナ禍以降のトレンドに大きな変化はない。

注目されるのは、コロナ禍をきっかけに始まった、家族層（0～14歳、30代、40代の合計）の転入超の動きである（図表4）。これは関西の大きな強みといってよく、中長期的には地域の出生数の改善にもつながるものといえよう。

その一方で、20～24歳の転出は依然として4千人前後の規模が続いている。これは主に新卒の就職に伴う動きであり、南関東向けが中心と考えられる。

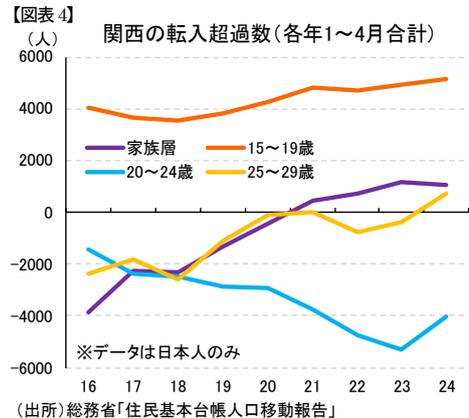
こうした動きには、関西からの労働力の流出というイメージがもたれるが、そうとも言い切れない。20～24歳の転出が続いている一方、15～19歳の転入は増えているからである。つまり、大学入学時に他地域から転入し、4年後の就職時に転出していくという、一つのサイクルとしての見方も必要であろう。

さらに、25～29歳の転入が増えている点も見逃さない。新卒で他地域の企業に就職した後、数年経って、関西に戻る動きが増えていることを意味する。これは社内異動によるものや、テレワークを前提に、住む場所だけを替える動きなどが想定される。こうした動きを勘案すると、20～24歳の転出増についても、ことさら悲観的にみる必要はないのではないか。

●今後の注目点

現状、今年の人口移動はまだ4か月分が発表されたのみであり、先行きはまだ不透明である。ただ、1～4月の好調は間違いなく大きなサプライズであり、今後に大きな期待がかかる。

近年のサイクルとしては、5月にいったん転出が増えた後、6～12月は転入と転出の動きがほぼ拮抗する動きとなる。このまま好調を維持すれば、日本人の移動に関しては、通年での転入超となる可能性もあるだけに、今後に大きな注目が集まろう。



本件照会先：大阪本社 荒木秀之
TEL: 06-7668-8805 mail: hd-araki@rri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。